

授業力の向上と校内研修の在り方

～子ども主体の授業づくりを通して～



後志教育研修センター



指導案バンク QRコード

令和8年3月

発刊にあたって

当センターでは、北海道教育研究所連盟第18次共同研究『一人一人の子どもを主語にする学校教育の実現に向けて』を主題とする共同研究推進計画に参画し、『授業力の向上と校内研修の在り方～子ども主体の授業づくりを通して～』を研究主題として、3年次研究の2年目にあたる研究を推進してきました。

研究委員会では、視点1に、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るための授業改善として、学習指導研修講座と検証授業、そして指導案バンクの3つの内容から、視点2に、教職員が主体的になるための研修の工夫と改善として、校内研修講座と検証授業の2つの内容から研究主題に迫っていく取組を行ないました。

また、北海道教育研究所連盟共同研究推進委員会による「授業において大切にしたいこと」として

- A 子供が「自分（たち）で学び取る」授業
《目的に合わせた端末の使い方や学習スタイルの選択等、学び方を学べる工夫》
- B 子供の「興味・関心」や「問い」を大事にした授業
《必要感のある課題設定や単元（題材）計画、教師の発問や声かけの工夫》
- C 子供が安心して、進んで取り組める授業
《学習の土台づくり（望ましい人間関係の構築、学習ルールや基本的・基礎的な知識及び技能、ICTのスキル等）》

に重点を置いた授業検証を、倶知安小学校で開催することができました。

「調査研究の中間報告」という位置づけをしている「調査研究事業報告会」は、管内ほとんどの市町村からの参加を得ることができました。今回の大きな成果の一つに、現場の最前線に立っている教諭の先生方の参加が多く、研究協議では大いに質疑応答がなされ、大きな熱量を感じ取ることができました。

研修により、教員が学び合い、人と人との様々な「かかわり」の中で「気づき」、自らの見方や在り方が「変わっていく」ことを期待しています。それが児童生徒のウェルビーイングの実現へとつながります。

今後一層、センターから発行される研究紀要を、ご活用いただけますようお願いいたします。

当センターからの報告の内容を日常実践に活かしていただき、子供一人一人の「授業の内容はよくわかる」「学校に行くのが楽しい」「自分にはよいところがあると思う」が増えることにより、研究の価値が生まれることとなります。

子供が「この学校で、後志で、学ぶことができてよかった」と実感できるように、ともに目指していきたいと思えます。

結びとなりますが、所員を支えて頂いた校長先生、そしてご指導をいただきました北海道教育庁後志教育局、教育関係機関の皆様には厚く感謝を申し上げ、発刊の言葉と致します。

令和8年3月

後志教育研修センター 所長 木村和義

目 次

◇発刊にあたって

後志教育研修センター 所長 木村 和義

学習指導に関する調査研究委員会

【第1章】 研究の概要

【担当：大塚】

- 1 研究主題および副主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 研究仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 4 研究の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 5 研究計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3～
- 6 研究構造図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 7 調査研究委員会年間計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

【第2章】 研究の内容

I 研修講座

【担当：秋森・渋谷・齋藤】

「校内研修」から・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7～

【担当：山本・平間・菅原】

「学習指導（授業づくり）」から・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17～

【担当：中島・橋谷・小中・山崎】

「学習指導（授業改善）」から・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25～

【担当：大塚】

II 検証授業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30～

【担当：橋谷】

III オンデマンドについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34

【担当：渋谷】

IV 指導案バンクについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35

【第3章】 研究の成果と課題

今年度の成果と課題・来年度に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36～

◇あしがき

【第1章】

研究の概要

<第1章>研究の概要

1. 研究主題および副主題

授業力の向上と校内研修の在り方
～子ども主体の授業づくりを通して～

2. 主題設定の理由

グローバル化の進展や急速な情報化により、社会はこれまでにない速さで変化し、将来の予測が困難な時代を迎えている。このような社会において、子供たちが変化に柔軟に対応し、自らの人生を主体的に切り拓いていくためには、学校教育の在り方を改めて見直す必要がある。教育には、知識や技能の習得にとどまらず、社会の中で生きていくために必要な資質・能力を育成することが求められている。

こうした背景のもと、子供たち一人一人が生涯にわたって学び続ける力を身に付けるためには、授業改善が不可欠である。教師が一方的に教え込む授業から、子供が学習内容を生かして自ら考え、判断し、表現し、他者と学び合う授業へと転換していくことが求められている。すなわち、子供を学習の主体とした授業づくりが、これからの学校教育において重要な視点となる。

授業においては、学習課題や学習方法について自ら選択・決定しながら学ぶ「主体的な学び」を充実させていくことが大切である。試行錯誤を通して学びを進め、自身の学習を振り返り、よりよい学びへと調整しようとする態度や、粘り強く課題に取り組もうとする姿勢は、子供たちが主体的に生活していくための基盤となる。そのためには、子供一人一人の学びの状況に応じた「個別最適な学び」と、他者との関わりの中で学びを深める「協働的な学び」を、授業の中で一体的に充実させていくことが重要である。

また、現行の学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現が重視され、学習内容だけでなく学び方そのものが問われている。これは、子供たちが主体的に生き、多様な人々と関わりながら協力して生きていく力を身に付けていくことの重要性を示している。本研究では、こうした考え方を背景理念として位置付け、子供主体の授業づくりを重視する。

一方で、授業改善を継続的に進め、学校全体として授業力の向上を図るためには、校内研修の在り方が重要となる。教職員一人一人が学び続ける姿勢を大切にし、日常の授業実践をもとに課題や成果を共有し合う校内研修を通して、授業改善を組織的に進めていく必要がある。そのためには、教職員が主体的に参加し、互いに学び合うことのできる校内研修の工夫と改善が求められる。

以上のことから、本研究では、「授業力の向上と校内研修の在り方」を研究主題とし、子供主体の授業づくりを通して、授業改善と校内研修の充実を一体的に進める方策について明らかにしていく。

3. 研究仮説

仮説1

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るための授業改善に向けて、授業づくりの指針を示すことで、管内における授業づくりの質の向上に寄与することができる。

仮説2

教職員自身が学び続ける姿勢を大切にした研修を行い、その工夫や改善を共有することで、今後の研修づくりの一助となる。

4. 研究の視点

視点1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るための授業改善

- ・研修講座（授業づくり）…経験の浅い教員と共に、単元計画や1単位時間の授業づくりの方法について考える。
- ・研修講座（授業改善）…中堅教員と共に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を関連付けた授業改善の方法について考える。
- ・検証授業…一体的な充実を図るための授業づくりについて、実践・検証を行う。

視点2 教職員自身が主体的になるための研修の工夫と改善

- ・研修講座（校内研修）…校内研修の在り方について、研修担当者とともに考える。
- ・検証授業…一体的な充実を図る授業実践を通して、その学校における研修の進め方を把握し、よりよい校内研修の工夫について検討していく。
- ・指導案バンク…授業づくりの参考として活用してもらえるよう、実践事例を広く集める。

<参考文献>

文部科学省（2015）

「教育課程企画特別部会 論点整理」

北海道教育委員会（2017/2023改訂）

「北海道における教員育成指標」

北海道教育研究所連盟（2023）

「第18次共同研究 概要」

文部科学省（2024）

「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会 論点整理」

5. 研究計画

(1) 年次計画と実際

【第1年次】令和6年度（2024年度）「情報収集の1年」

- ・「研究主題」「主題設定の理由」「研究仮説」「研究の視点」の検討
- ・資料収集およびアンケート等による現状の課題整理
- ・検証授業の実施
- ・研修講座「学習指導（授業づくり・授業改善）」「校内研修」の資料作成および講座運営
- ・指導案バンクの整理・収集作業
- ・調査研究事業報告会に向けた準備・発表および研究紀要の作成

【第2年次】令和7年度（2025年度）「情報収集・検討・発信の1年」

- ・現状において効果的であると考えられる内容の発信
- ・検証授業の実施
- ・研修講座「学習指導（授業づくり・授業改善）」「校内研修」の資料作成および講座運営
- ・指導案バンクの収集・整理作業
- ・調査研究事業報告会に向けた準備・発表および研究紀要の作成

【第3年次】令和8年度（2026年度）「3年間の調査のまとめ」

- ・これまでに発信した内容の整理・検討
- ・検証授業の実施
- ・研修講座「学習指導（授業づくり・授業改善）」「校内研修」の資料作成および講座運営
- ・指導案バンクの収集・整理作業
- ・調査研究事業報告会に向けた準備・発表および研究紀要の作成

(2) 推進計画

① 所員による研修講座

5月28日（水）	研修講座「校内研修」～全員参加の校内研修を目指して～ 対象：分掌チーフ・ミドルリーダー層（経験年数5年程度～）、研究担当者 日常の授業実践を踏まえた校内研修の在り方 情報提供および実践交流 担当所員…◎秋森 渋谷 齋藤
----------	---

<p>6月20日（金）</p>	<p>研修講座「学習指導（授業づくり）」</p> <p>～授業づくりに悩んでいませんか？一緒に授業をつくりましょう！～</p> <p>対象：初任段階層（経験年数1～5年程度）</p> <p>単元計画および1単位時間の授業づくりの基礎・基本</p> <p>担当所員…◎山本 平間 菅原</p>
<p>9月17日（水）</p>	<p>研修講座「学習指導（授業改善）」</p> <p>～自己の課題・悩みをもとにした授業改善～</p> <p>対象：分掌チーフ・ミドルリーダー層（経験年数5年程度～）</p> <p>授業改善の視点</p> <p>よりよい授業づくりについて</p> <p>担当所員…◎中島 橋谷 小中 山崎</p>

② 検証授業

10月24日（金） 俱知安町立俱知安小学校 5年1組（習熟度別学習）

算数科 菅原 涼平 教諭

③ 指導案バンク

これまで掲載されていた指導案等について、内容の更新が必要な状況であったことから、活用の促進を図るため、今年度は所員在籍校より指導案や単元計画の提供を受け、新たな資料を追加した。現場の教員が実践に生かしやすい内容となるよう、情報の更新と充実を進めた。

6. 研究構造図

22 世紀まで生きる子どもたちに

- ・ Society 5.0～持続可能な未来社会の創り手として、技術革新や社会の変革を生み出していく力
- ・ 「生きる力」～3つの柱 知識・技能／思考力・判断力・表現力／学びに向かう力、人間性等
- ・ 学習指導要領の実施～主体的・対話的で深い学び／指導と評価の一体化

学校現場のニーズ

研修センターに期待される役割



授業力の向上と校内研修の在り方
～子ども主体の授業づくりを通して～

研究体制・方法

- ・ 検証授業
- ・ 理論研究
- ・ 研修講座「学習指導」「校内研修」
- ・ 指導案バンク

視点1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の
一体的な充実を図るための授業改善

- ・ 研修講座（授業づくり）…経験の浅い教員と共に、授業づくりの方法を考える。
- ・ 研修講座（授業改善）…経験豊富な教員と共に、一体的な充実を図るための授業改善の方法について考える。
- ・ 検証授業…一体的な充実を図るための授業づくりについて、実践・検証を行う。

仮説1

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るための授業改善に向けて、授業づくりの指針を示すことで、管内における授業づくりの質の向上に寄与することができる。

視点2 教職員自身が主体的になるための

研修の工夫と改善

- ・ 研修講座（校内研修）…校内研修の在り方について、研修担当の先生方とともに考える。
- ・ 検証授業…一体的な充実を図るための方法について、考えとともに、その学校の研修の方法を知り、よりよい校内研修の工夫について考えていく。
- ・ 指導案バンク…授業づくりの参考としてもらえるよう、実践事例を広く集める。

仮説2

教職員自身が学び続ける姿勢を大切にした研修を行い、その工夫や改善を共有することで、今後の研修づくりの一助となる。

調査研究委員会年間計画

回	日時	名称	内容	備考
1	4月24日(木)	第1回 調査研究委員会 (校内研修)	①研修講座「校内研修」 事前研修講座内容の確認・検討 ②レジュメの印刷、丁合等。	研修センター 秋森T、渋谷T、齋藤T、 大塚T
2	5月26日(月) 所員会議後	第2回 調査研究委員会	①推進委員長、副委員長の選出 ②研究主題の確認 ③年間計画の作成 ④研修講座講師決定→講座内容の検討→ 事前研日程	研修センター 山本T、橋谷T、中島T、 平間T、秋森T、渋谷T、 小中T、齋藤T、山崎T、 菅原T、大塚T
3	5月26日(月)	第3回 調査研究委員会 (授業づくり)	①研修講座「学習指導(授業づくり)」 事前研修講座内容の確認・検討 ②レジュメの印刷、丁合等。	研修センター 山本T、平間T、菅原T
4	5月28日(水)	研修講座 「校内研修」 第4回 調査研究委員会	①運営、講師、参加 ※参加の都合のつく所員は参加。 ①研修講座「校内研修」の事後研修	研修センター 秋森T、渋谷T、齋藤T、 大塚T、橋谷T、菅原T、 中島T
5	6月20日(金)	研修講座 「学習指導 (授業づくり)」 第5回 調査研究委員会	①運営、講師、参加 ※参加の都合のつく所員は参加。 ①研修講座「学習指導(授業づくり)」 の事後研修	岩内東小学校 山本T、平間T、菅原T、 大塚T、中島T、齋藤T
6	8月5日(火)	第6回 調査研究委員会 (授業改善)	①研修講座「学習指導(授業改善)」 事前研修 講座内容の確認・検討 ②レジュメの印刷、丁合等。	大川小学校 橋谷T、中島T、小中T、 山崎T
7	9月17日(水)	研修講座 「学習指導 (授業改善)」 第7回 調査研究委員会	①運営、講師、参加 ※参加の都合のつく所員は参加。 ①研修講座「学習指導(授業改善)」の事 後研修	大川小学校 橋谷T、中島T、小中T、 山崎T、大塚T
8	10月24日(金)	検証授業① 第8回 調査研究委員会	①授業検証(個別の見取り) ②事後研	俱知安小学校 山本T、橋谷T、平間T、 秋森T、小中T、山崎T、 菅原T、大塚T
9	12月12日(金) 所員会議後	第9回 調査研究委員会	①研究紀要骨子、役割分担の確認 ②調査報告事業報告会に向けた最終確認	研修センター 山本T、橋谷T、中島T、 平間T、秋森T、渋谷T、 齋藤T、山崎T、菅原T、 大塚T
10	1月8日(木)	調査研究事業 報告会	①プレゼン発表 ②運営、参加	研修センター 山本T、橋谷T、中島T、 平間T、秋森T、渋谷T、 小中T、山崎T、菅原T、 大塚T
11	2月17日(火) 所員会議後	第10回 調査研究委員会	①次年度研修講座計画	研修センター 山本T、橋谷T、中島T、 平間T、秋森T、渋谷T、 小中T、齋藤T、菅原T、 大塚T
12	クラウド		①研究紀要原稿の最終チェック	

【第2章】

研究の内容

(1) 5月28日 研修講座「校内研修」講義1

「令和の日本型教育を担う教師の姿」

○学び続ける教師

※中央教育審議会(文部科学省)より

効率的・効果的



ファシリテーター

校内研修

- 学びを支える主体的な姿勢
- 個別最適な教師の学び、協働的な教師の学び
- 適切な目標設定・現状把握、積極的な「対話」
- 学びの成果の可視化と組織的な共有
- 質の高い有意義な学習コンテンツ

「令和の日本型教育を担う教師の姿」

○質の高い有意義な学習コンテンツ

- 1: 明確な到達目標の設定⇒有意義な学びとなる
- 2: 各々の学びが特定のテーマにそって位置づけられ
入門・基礎・応用・発展が整理されている
- 3: 大学院や教育委員会等による研修の活用
- 4: ワンストップ的なプラットフォーム
- 5: 「現場経験」を重視した学び(OJT)

校内研究チャート

研究組織づくり

(1) 研究主題・副題の設定

(2) 研究仮説の設定

(3) 研究構想の確立

(4) 授業実践



(5) 研究の検証・まとめ・つなげる

(1) 研究主題・副題の設定

学校の教育目標

今年度の学校の
重点目標

昨年度の研究の
成果と課題から、
深化・発展

学校の教育課題
(生徒の実態)

今日的な教育課題

教師の願い

人的環境

めざす生徒の姿

研究主題

(1) 研究主題・副題の設定

3つの要素

主語は
「教師」

①目的(生徒の成長)

「～の育成」「～を求めて」等

②対象(研究の領域・分野)

「～における」「～の研究」等

③内容・方法(研究の手立て)

「～を通して」等

(1) 研究主題・副題の設定

3つの要素

①目的(生徒の成長)
「～の育成」「～を求めて」等

②対象(研究の領域・分野)
「～における」「～の研究」等

③内容・方法(研究の手立て)
「～を通して」等

例①

主題 ①目的(生徒の成長)

①自分の考えを豊かに表現する生徒の育成

副題 ②対象(研究の領域・分野)

～②国語科における

③言語活動の指導の工夫・改善を通して～

③内容・方法(研究の手立て)

(1) 研究主題・副題の設定

3つの要素

①目的(生徒の成長)
「～の育成」「～を求めて」等

②対象(研究の領域・分野)
～における」「～の研究」等

③内容・方法(研究の手立て)
「～を通して」等

例③

主題

①目的(生徒の成長)

①自己成長能力・課題解決能力をはぐくむ

②個別最適な学びの充実

②対象(研究の領域・分野)

副題

～③自らの学びを選択する場面と自らの成長を感じることができるふりかえりを通して～

③内容・方法(研究の手立て)

(2) 研究仮説の設定

3つの要素

①取り組む場面

「～において」

②具体的な手立て

「～することにより」

③目指す姿、生徒像

「～となる(であろう)」

(2) 研究仮説の設定

例

研究主題

自分の考えを豊かに表現する生徒の育成
～各教科における言語活動の指導の工夫を通して～

3つの要素

① 取り組む場面

「～において」

② 具体的な手立て

「～することにより」

③ 目指す姿、生徒像

「～となる（であろう）」

研究仮説

① 交流の場面において、

② ペアワークやグループワーク、

全体交流などを効果的に位置づけることにより

③ 集団の中で自分の考えや想いを話したり伝えたりすることが
できるようになるだろう。

① 取り組む場面

「～において」

② 具体的な手立て

「～することにより」

③ 目指す姿、生徒像

「～となる（であろう）」

(3) 研究構想の確立

どんな学習を
強調するか

めざす生徒の姿

声かけの
内容

ICT
(映像支援等)

学習活動に
関わる構想

授業内容に
関わる構想

手立てに
関わる構想

どんな学習を
積み重ねて成
長を促すか

正負の乗法を
小学校のかけ算に例えよう

動きやリズムゲーム
を取り入れよう

(3) 研究構想の確立

★全体で構想を統一する

【メリット】

- ①研究の積み上げがしやすい。
- ②設定した内容（ICT等）を得意としている
教員のリードを期待することができる。

【デメリット】

- ①興味の無い・苦手な教員にとっては、
研究意欲が減退する場合がある。
- ②取り上げた内容のみで
無理に生徒の育成をしようとしてしまう。

★それぞれの構想で進む

【メリット】

- ①各教員が自分の興味、関心をもっている
内容で主題に迫ることができるので、
研究意欲がわきやすい。

【デメリット】

- ①見通しが持てない教員が出てきやすい。
- ②共通理解を十分行わないと
研究成果が拡散しまとめるのが困難になる。

(3) 研究構想の確立

効果的で効率的な構想図や
仮説を検証するためのシートを作成



共通理解を図ることや
研究成果のまとまりにつながる

(4) 授業実践



学習指導案作成

オリエンテーション

事前協議

研究授業

事後協議

授業実践のふりかえり

(5) 研究の検証・まとめ・つなげる

校内研修の**ゴール**は「**成果**」と「**課題**」!

研究主題
研究の仮説

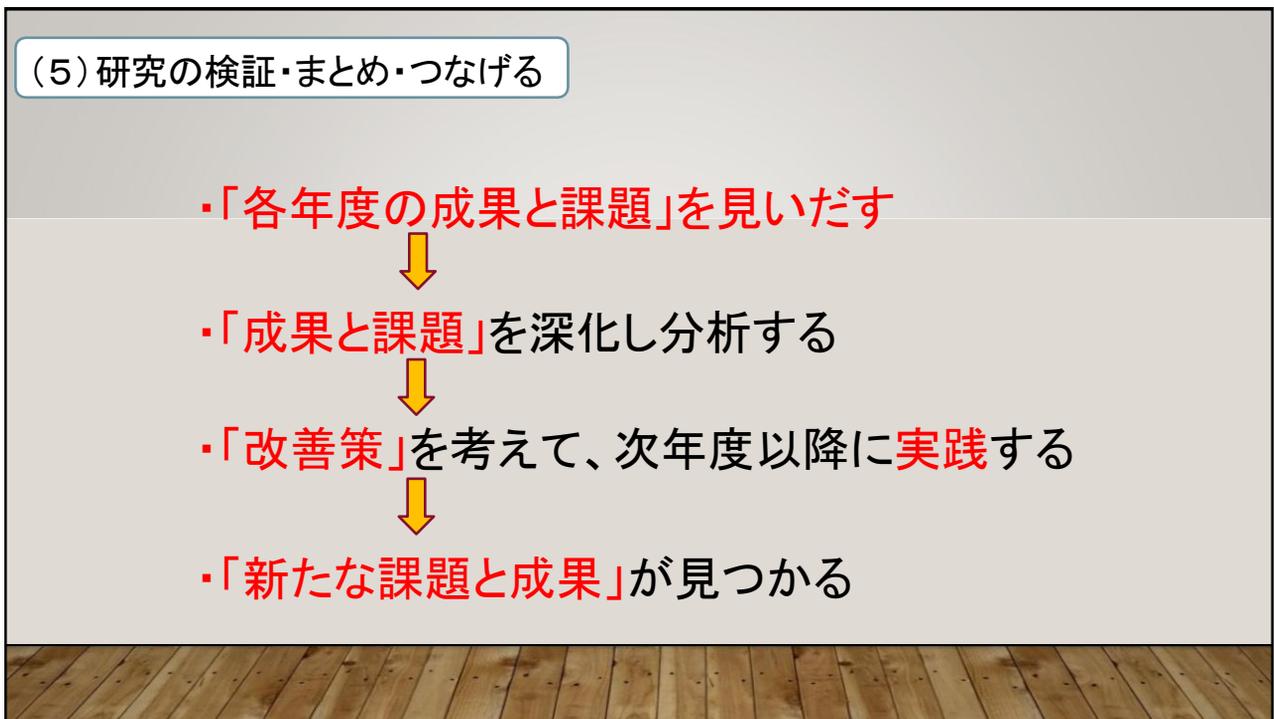
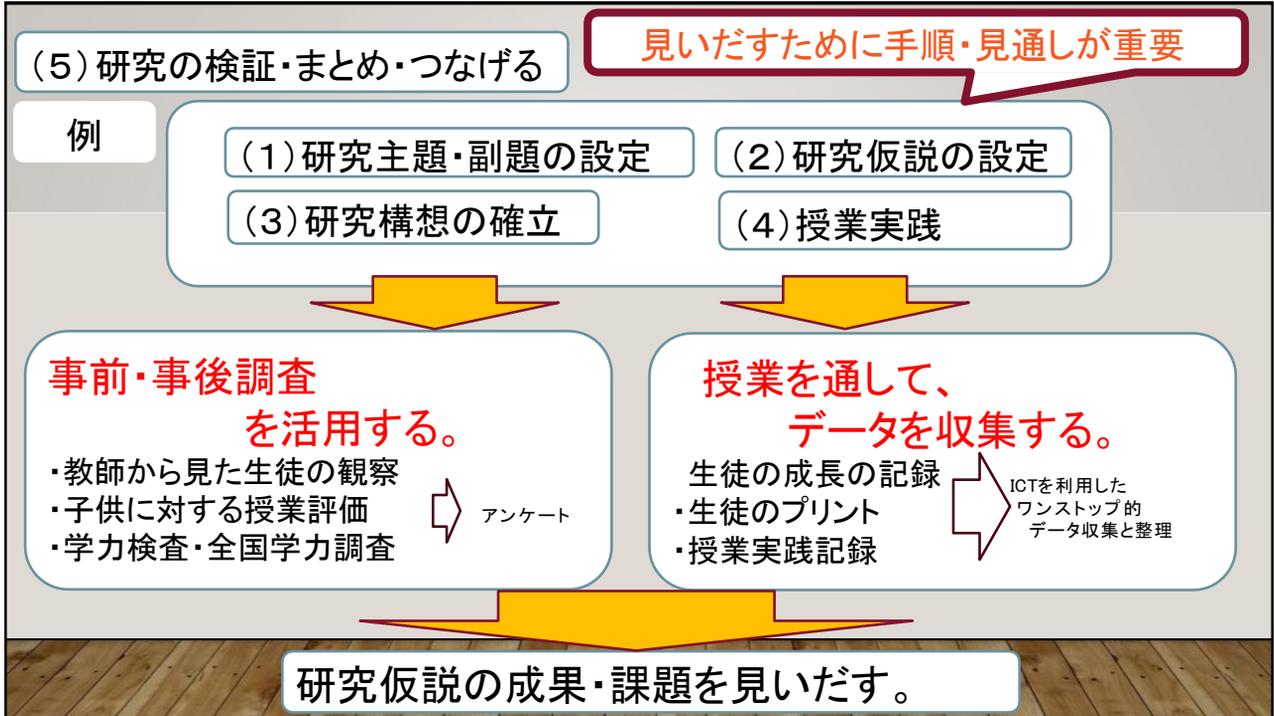
日々の取組

仮説の検証

ゴール

研究授業

見いだすための手順・見通しが重要



以上のことを行うことで

成功体験



やりがい

※さいごに研究推進計画の作成について

○計画の年数は3年が目安

- 計画の変更が必要な場合もある・・・
→ 柔軟に計画を変更し主題に迫れる。
- 短いと成果が見られる前に終わる。
→ 教員と生徒の努力が実りづらい
- 長いと教員方の入れ替えの影響が大きくなってしまう。

※さいごに研究推進計画の作成について

例

1年次

基盤づくり

- ・新テーマ策定
- ・研究体制の確立
- ・仮説や視点の理解
- ・授業実践
- ・成果と課題の共有
- ・次年度重点の明確化

2年次

深化・充実

- ・新テーマ確定
- ・研究の重点確認
- ・授業協力者を招き
授業実践
- ・実践の積み上げ
- ・成果と課題の共有

3年次

発展

- ・実践発表会開催による外部の評価
- ・研究のまとめ
- ・主題・副題・視点の見直し
- ・年次研究の立案

まとめ

① 主題⇒仮説⇒実施⇒検証⇒まとめの流れが重要

※すべてに具体的な設定理由と取り組みを示し共通理解を図る

② 時代の変化への対応やよりよい成果を生み出すための状況に応じた柔軟な対応が重要

③ 教員の負担を減らし、時間を生む

ICT等を利用した効率的・効果的な環境整備

④ 教員にも意欲を生むためのきっかけ・環境が重要

成果と課題

【成果】

・研修全体を通して、初任者から中堅まで幅広い教員が、研究の基礎を体系的に理解できたこと

【課題】

・さらに参加者の実態に迫るため、事前アンケートを取り入れた講座づくりが必要



(2)6月20日 研修講座「学習指導」(授業づくり)

— [PRESENTATION] —

研修講座 授業づくり

子どもを主語にした授業作り

研修センター

授業作りの悩み

課題とまとめの
文言どうしよう…

授業の時間配分が
うまくいかない…

先輩教員のように
優れた指導が
できない…

【前略】

・・・しかし、さらに気づいてしまいます。

「教科書を教える」も「教科書で教える」も主語が先生だということに。これは大変なことです。

「教師が教える」「子どもが教わる」を令和の時代にやっている場合ではありません。こどもを主語にしてもう一度考えると「教科書で学ぶ」となります。

引用：こどもにゆだねる国語授業「自由進度学習」の取り入れ方・進め方 吉野竜一著 より

子どもに「任せる」のではなく
子どもに「ゆだねる」場面を
取り入れた授業づくり
やってみませんか？

→ 子どもを主語にした授業づくり

【複線型授業なら…】

課題とまとめの
文言どうしよう…

☆一人一人にとって最適な課題を一人一人
がたてられる！それぞれの学習の成果を
自分の言葉でまとめへ！



ICTで課題やまとめ、振り返りを共有！



教師は本時（単元）のゴールをしっかり伝える。

【何が出来るようになるか、どんな力を身につけるか】

→ゴールに向け、今日なにをするのかをゆだねる。

【複線型授業なら…】

先輩教員のように
優れた指導が
できない…

主体的に学び、「わかった！」が
たくさん聞ける方法は一人一人違うのでは！？

➡ その子にとって最適な学びの選択を！

☆ 学習を進めるための手段をゆだねる！

- ・ 1人で考える？
- ・ 教科書を見て考える？
- ・ 最初から友達と進める？
- ・ 先生と一緒に進める？
- ・ タブレットで調べる？
- ・ 動画で学習してみる？

身につけたい力や授業の
ゴールがはっきりしてい
れば、手段や方法をゆだ
ねられます！

【複線型授業なら…】

授業の時間配分が
うまくいかない…

☆ 45分間をどのように使うのかをゆだねる

【例】

(Aさん)

- ・ 課題設定 5分
- ・ 自力解決 & 交流 **15分**
- ・ まとめ 5分
- ・ 練習問題 10分

(Bさん)

- ・ 課題設定 5分
- ・ 自力解決 & 交流 **5分**
- ・ まとめ 5分
- ・ **周りのサポート 10分**
- ・ 練習問題 10分

-
- ・ みんなで確認 5分
 - ・ 振り返り 5分

-
- ・ みんなで確認 5分
 - ・ 振り返り 5分

- ・ 通常通り進められる子
 - ・ 予習してすぐできる子
 - ・ 時間や支援が必要な子
- それぞれに個別最適な学びを！

【取り組み例①】

教科書
通りなら…

6年社会科：「国づくりの歩み」

学習内容：縄文2時間＋弥生2時間＋古墳2時間＋まとめ1時間



学習問題【縄文、弥生、古墳、どの時代の人になりたい！？】

- ・今日の課題をゆだねる（どの時代の何について調べてみたいか）
 - ・学習方法をゆだねる（教科書、資料集、本、タブレット、ペア、一人、etc...）
 - ・時間の使い方をゆだねる（授業終了までに「まとめ」「振り返り」「次回の課題の入力」）
 - ・まとめ方をゆだねる（ノート、画用紙、スライド、キャンバ…）
- ※誰かと分担したり、協力する場合は共同編集でもOK

- ・指導事項についてはリスト化し、どのタイミングでも良いから必ず調べ、理解する
- ・調べ6時間→学習問題について意見交流1時間→テスト

【取り組み例②】

◎算数科『学び合い』

- ・課題に「全員」というワードと、「～がわかる」「～できるようになる」を入れた授業作り！

【例】

課題 線対称な図形の書き方を考えよう



課題 **全員が線対称な図形の作図ができるようになる**

- ・全員ができるまで課題は達成されたことにはならない
→わかった人、できた人も次にすべきことが明確
- ・この時間で身につける力が明確
- ・理屈上は全員100点



【取り組み例③】

◎算数科「全員達成の自由進度学習」

【例】分数のかけ算（全11時間＋テスト）

- 1時間でどこまで進めるかをゆだねる（1ページ？もっと進める？）
- 学習の方法をゆだねる（一人で学ぶ、友達と学ぶ、友達に聞いて進める、答えを見て考える、調べてみる…）
- 必ず時間内に全ページを解き、チェックポイントを全員クリアする
※単元の途中でチェックポイント（ミニテスト）で習熟確認！
- 全員が11時間で達成するために、今日なにをすべきかを課題へ
- 時間の使い方をゆだねる（まとめ、振り返り、次回の課題まで！）

まとめ…今日の学習でわかったこと、大事だと思ったこと
振り返り…今日の学習の取り組み方、次回の目標など

【取り組み例④】

◎身についた力と実生活をリンクした活動を！

【昨年度の例】

アイデアが
思いつかないときは、
AIチャットなどに
聞くこともオススメ！

- 6年生算数「比」
→家庭科の調理実習とカリキュラムマネジメントし、自分の好みに合わせたドレッシング作り
（何：何：何で作る？それぞれ何mlずつ必要？）
- 6年生算数「拡大図と縮図」
→ポッチャのコートをオリジナルデザイン！
自分でデザインしたコートを実寸大で作るとき、角度の大きさが変わらないことや縮尺の使い方や意味などを自分の手や目でも学習！

【1単位時間で授業をつくる場合】

①どの教科でも、**単元（本時）の目標**を明確にし、**単元全体のイメージをつかむ！（ゴールを決める）**

【例：大造じいさんとがん（単元目標）】

◎物語の山場をみつけ、読みを深める

- ・心情を読む力
- ・情景を読む力
- ・山場を見つける力

教科書や
指導書から
指導事項を
探す！

大造じいさんとがんを教えるのではなく、
大造じいさんとがんを通じて**国語の力**をつける

【1単位時間で授業をつくる場合】

②**ゴールが決まったら、ゴールから逆算して単元計画を
考える → 1単位時間にすべきことが見えてきます！**

【単元計画】

- (6)大造じいさん（残雪）に手紙を書く
- (5)物語の山場はどこだ？！
- (4)残雪のプライドを感じた場面ランキング
- (3)大造じいさんの気持ちが表れている好きな情景描写
ランキング
- (2)大造じいさんの気持ちが表れている場面ランキング
- (1)はじめの感想を書こう

◎物語の山場を見つ
け、読みを深める

- ・心情を読む力
- ・情景を読む力
- ・山場を見つける力

【1単位時間で授業をつくる場合】

(7)単元の振り返り！単元で身についた力は？

or

「この時間で身についた力は？」
「この先のどんな場面で活用できそう？」

を毎時間の振り返りの視点に入れる

何のために学習するのか、どんな力が身についたのか
子ども達にも意識してもらおう！

【1単位時間で授業をつくる場合 まとめ】

【教師】

- ①単元のゴール（身につけさせる力）を定める
- ②ゴールに向け、1単位時間ごとに何を学ばせるか考える
→1単位時間のゴールはなに？
- ③今日の授業ではどこを（どこまで）ゆだねる？
・時間の使い方 ・課題の解決方法 などなど
- ④身についた力について振り返りをさせる

【子ども】

- ①②子どもが単元のゴール（身につける力）を確認し、そこに向かうために1単位時間で学ぶことを意識する。
- ③子どもが学習の仕方を決める
- ④子どもが今日の学習で身についた力について振り返りをする。

【授業づくりの上で大切なこと】

- ・なぜこの学習をするのか
 - ・どんな力を身につけるのか？
- を教師が理解して授業作りをすること

【成果】

- ・ 初任段階の先生方で、普段できない悩みの交流を行うことで明日からの実践に役立つきっかけとなった
- ・ 子どもを主語にした授業づくりについての考え方を共有することができた

【課題】

- ・ 小中学校の先生方の偏りを少なくする講座のもち方について検討する必要がある

(3) 9月17日 研修講座「学習指導」(授業改善)

余市町立大川小学校
第5学年 算数ぐんぐんコース
算数「分数の大きさとし算、ひき算」
授業者：所員 中島佳美

～講座の目的～

自己の課題をもとにして、
授業改④の視点を明確にしな
がら、より良い授業づくり
について研修する

- ・ 授業改④における13の視点
- ・ ラーニングマウンテンの活用
- ・ 習熟度別での指導

授業改善の13の視点

堀田龍也先生
(東京学芸大学
教職大学院教授)

・ 授業改善や主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、教師の手立てと授業改善の視点の関係性を重視した研究を提唱

・ 授業改善における13項目の視点
もともとは東京都教育委員会の13の視点
堀田先生が学習者の思考や活動の質に焦点を当てて分類

主体的な学びに関する授業改善の視点

学ぶことに興味関心を持つ

自己のキャリア形成の方向性と関連付ける

見通しを持つ

粘り強く取り組む

自己の学習活動を振り返り次につなげる

対話的な学びに関する授業改善の視点

子供同士の協働を手掛かりに考える

Aペアや班で考える

B学級全体で考える

教職員や地域の人との対話を手掛りに考える

先哲の考え方を手掛りに考える

多様な表現方法を用いて対話する

深い学びに関する授業改善の視点

知識を相互に関連付けてより深く理解する

情報を精査して考えを形成する

問題を見いだして解決策を考える

思いや考えを基に創造する

学習過程の中における13の視点

	課題把握	課題追究	課題解決	ふり返り
主体的	1 学ぶことに興味関心をもつ 3 見通しを持つ	4 粘り強く取り組む		2 自己のキャリア形成の方向性と関連付ける 5 自己の学習活動を振り返り次につなげる
対話的		6 子供同士の協働を手掛かりに考える 6 ペアや班で考える 7 教職員や地域の人との対話を手掛かりに考える 8 先哲の考えを手掛かりに考える 9 多様な表現を用いて対話する	6 学級全体で考える	
深い学び		11 情報を精査して考えを形成する 12 問題を見出して解決策を考える 13 思いや考えを基に、創造する	10 知識を相互に関連付けてより深く理解する	

板書型指導案（令和7年9月17日 6時間目）（教科 領域 算数）（単元・主題名 分数の大きさとたし算、ひき算）

① 興味や関心を高める
学びの山を使うことで児童の意欲を引き出す

② 問題をつかむ
数値が表す大きさ（加減）を捉えられるよう配慮

③ 課題を提示する

④ 見通しをもつ
同分母分数の加減計算は既習であることを想起

⑤ 自力

⑥ 小交流・全体交流
なぜ通分をする必要があるかを理解させる

⑦ まとめをする

協働して課題解決する
多様な情報を収集する
多様な手段で説明する
小→全体交流 積極的な発言

○本時の目標（ねらい）
 ○指導の留意点や準備物・掲示
 ○リットル図などを活用して、適切に理解したり説明したりできるよう配慮する。

準備物…クロームブック（学びの山提示）、黒板掲示用問題シート

ラーニング・マウンテンとは？

大妻女子大学教授

樺山敏郎氏 が提唱

単元や題材のまとまりを
“山登り”に例え、
学びを見える化したもの
学びの見通しをもつ

それぞれの子どもが
自身の学びを最適化
学習の個性化
指導の個別化を実現

ラーニング・マウンテン 単元名 (登場人物の気持ちの変化を想像し、日記にまとめよう) 全(8)時間 教育出版

学習課題 登場人物の気持ちの変化を想像しながら読み、感想や考えたことを「ごん日記」と「ごんへの日記」にまとめよう。

主体的に学習に取り組み態度

わかること・できること **知識・技能** ① 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の意味を話し、語彙を豊かにする。(11才)

考えること・書くこと **思考・判断・表現** ② 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面を移り変わりとしらべ付けて具体的に想像する。(12才) ③ 文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもつ。(12才)

くふうして学ぶこと **学びの態度** ④ 「ごん日記」を繰り返し読み、「ごん日記」「ごんへの日記」を何度も書き直しながら、自分の考えをまとめたり、伝えたりしようとする。

ゴール ⑤ この単元を通して振り返り
・登場人物の気持ちの変化を想像するとき、どのようなことに気をつけましたか。
・日記を書くとき、どのようなことに気をつけましたか。

第3ステージ (1) 時間 評価 ⑤ (こんな学習をしてこんな力を！)
⑥ 「ごん日記」と「ごんへの日記」を友達と交換して読み合い、互いの考えを共有する。また、「登場人物の気持ちを想像して日記を書く」という言語活動を通して身につけた力を振り返る。

第2ステージ (5) 時間 評価 ⑥⑦ (こんな学習をしてこんな力を！)
③ 登場人物の行動や気持ちを捉えるために、第1場面から第6場面に小見出しをつける。
④ ごんの様子や行動、気持ちや性格を表す語句の意味を話し合う。
⑤ 複数の場面の叙述を結び付けながら、ごんの気持ちの変化を想像し、ごんの立場になって「ごん日記」を書く。
⑦ ごんに対するごんの気持ちの変化を想像し、読み手としてごんに語りかけたいことを「ごんへの日記」として書き留める。

第1ステージ (2) 時間 評価 (こんな学習をしてこんな力を！)
① 「ごん日記」を読んだ感想や考えを「ごん日記」「ごんへの日記」にまとめて友達と共有する学習の計画を立てる。
② 「日記」を書くというゴールをイメージするとともに、気持ちの変化をどのように読んでいくか見通しをもつ。

スタート ⑧ この単元に終わって終わっていること・できること
どのような言語活動を通してどのような力をつけてきたか？
物語の内容を伝え合う活動を通して、登場人物の行動や気持ちなどについて叙述をもとに捉える。

教育出版 指導資料より

大川小 5年2組 算数【単位量あたりの大きさ】学びの山

ゴール！ 普通の生活の中で、『お得！』をゲットだぜ！！

ミッション2 速さ
時間÷1時間に進む道のりで表した速さ
分速...1分間に進む道のりで表した速さ
秒速...1秒間に進む道のりで表した速さ
速さを求める式
速さ=道のり÷時間
進む道のりは、速さかかると時間から、
かかる時間は、進む道のりと速さから、
「時間=道のり÷速さ」で求められます。
これらのものがややくてわからないときは、
「木の下のほしめくろ(木の下のほしげた島)」と覚える
と良い

最終ミッション！
～たろうさんを救え！～
たろうさんは駅に待ち合わせをしていたが、間に合いか心配していた。計算した結果、太郎さんは間に合わないことが判明。急ぎ足にしなければならぬ結果となった。

ミッション1 単位量あたりの大きさ
人数÷シート数=1人あたりの面積(枚数)
分倍率で計算して、半割がかかる計算法をやる
よりも、わり算の式で計算した方が、**簡単、正確**
に、**正確に、どんなときでも**できるので、効率が良い。
(はかせどん) 単位量あたりの大きさ
→「1人あたり～」や「1mあたり～」など1あたり
いくつで表す大きさ
人口密度
1平方キロメートルあたりの人口を表す
人口÷面積(平方キロメートル)

大川小5年ぐんぐんコース算数【分数の大きさとたし算、ひき算】

ゴール！ 『分数の变身』おたすけ スーパーマン！

分数の引き算ができた！
その方は足し算の時と一緒で、分母が違ふときは
通分する。大きさを比べるときは1回通分する

いろいろな形の足し算を正しく解けた。
ポイント→約分できるときは約分する。
ポイント→整数同十、分数同十で計算すると良い。

通分ができた。
最小の分母の公倍数(最小)

約分ができた。
分子と分母を公倍数でわる。
より小さい数になるまで～

分数の大きさを正しくとらえることができた。
分母が同じ→ 分子が同じ→ 分子が同じ

【大川小における共通認識】 ※単元の内容や学年の実態に応じて、柔軟に構成・活用
国語⇒単元の始まりに、児童らの考えをもとに、学級全体で作り上げた上で進めていく。
算数⇒毎時間のまとめや振り返りをもとに、理解したことや考えをまとめながら、作り上げる。

【活用例】

- ・拡大して教室掲示し、授業の始まりと終わりで全体共有
- ・児童が各自で手元に持ち、確認しながら学習
- ・児童が各自、クロームブックで加除修正しながら学習

成果と課題

《成果》

- ・『13の視点』や『ラーニングマウンテン』を元に授業改善の視点を提案することができた。
- ・協議を通して、授業改善の方策や個々の課題について参加者同士の交流を促すことができた。

《課題》

- ・初任段階層の参加者が多く、幅広い年齢層の参加者を募ることができれば協議を深めることができた。
- ・交流がグループ内だけにとどまり、小中やグループ間で参加者の声を全体共有する場面を設定していなかった。

3 検証授業について

10月24日(金)実施
倶知安町立倶知安小学校
5年生 菅原 涼平教諭 算数科



3 検証授業について

研究主題

授業力の向上と校内研修の在り方
～子ども主体の授業づくりを通して～

3 検証授業について

視点1

主体的な学びを支える「単元構想」と「課題設定」の工夫

視点2

ねらいに迫るための「学習スタイル」の選択と活用

視点1

主体的な学びを支える「単元構想」と「課題設定」の工夫

単位量当たりの大きさ

単元の目標＝これができるようになる。

- ・速さなど単位量当たりの大きさの意味と表し方を理解し、それを求めることができる。
- ・違う種類の2つの数量の関係に着目し、大きさを比べたり表現したりする方法を考えることができる。
- ・違う種類の2つの数量の関係について粘り強く考えたり、学習したことを生活や学習にいかそうとしたりできる。

第2ステージ

- ⑥ だれが一番速い？
- ⑦ 速さはどのように求める？
- ⑧ 速さの単位が違う時にはどのように比べる？
- ⑨ 走る道のりはどのように求める？
- ⑩ かかる時間はどのように求める？

第3ステージ

- ⑪ 学んだことを使って考えよう。
- ⑫ まとめ
- ⑬ テスト

第1ステージ

- ①② こみくあいはどのように比べる？
- ③ 町のこみくあいはどのように比べる？
- ④ どうすればとれ具合が比べられる？
- ⑤ 単位量を使って求めよう。



学びの到達点を
明確に位置づけた単元計画

視点1

主体的な学びを支える「単元構想」と「課題設定」の工夫



視点1

主体的な学びを支える「単元構想」と「課題設定」の工夫

5年1組 算数

本時の目標
異種の二つの数量の関係に着目して、単位量当たりの大きさの比べ方や表し方を考えることができる。

10/24 金曜日 5時間目

「数学的」な見方・考え方
→数量を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・体系的に考えること

主な活用ICTツール

① 問題提示
「よくとれた畑」について考え、重さだけは比べられないことに気付かせる。

② 課題把握

③ 課題解決
個人思考&交流を通して

単位量当たりの大きさ

課題：とれどあい比べるにはどうすればいいだろうか。

1㎡あたりの重さ

1kgあたりの広さ

問題：畑でじゃがいもを育てました。どちらがよくとれた畑といえるでしょうか。

西小学校 西小学校
52kg 36kg

西小
36 ÷ 8 = 4.5

西小
8 ÷ 36 = 0.22...

答え：西小学校の方がよくとれた

まとめ：1あたりの大きさで比べるとよい。

④ 共有
それぞれの比べ方で、よくとれたといえるのは数値が大きい方が小さい方を確認しながら進める。

⑤ まとめ

⑥ 振り返り
コースレッドシートに記入

⑦ 練習問題

B評価 異種の二つの量の関係に着目し、単位量当たりの大きさの比べ方を考えている

A評価 異種の二つの量の関係に着目し、単位量当たりの大きさの比べ方を考え、説明することができる。

評価場面は⑥で記載

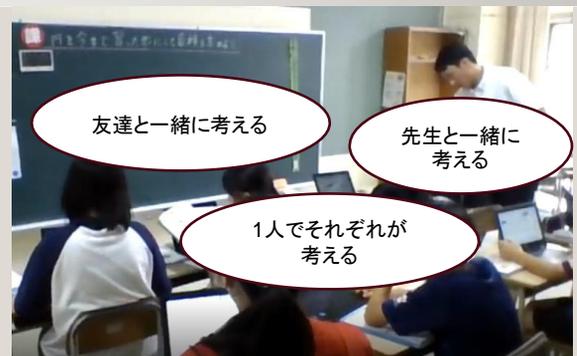
評価基準を焦点化し、学びのゴールを可視化した課題設定

視点2

ねらいに迫るための「学習スタイル」の選択と活用



解決意欲の喚起
子どもの「やってみよう！」を引き出す
場面設定と課題提示の工夫



柔軟な場づくり
思考の深まりに合わせ、個人・集団・共有のマネジメント力

調査研究委員会での話し合いについて

『目標と評価の関係性』

熊坂主任指導主事からのご助言

- ・「B評価」となる児童像の具体化 → ・教師自身が「到達イメージ」を明確に持つこと
- ・「支援の提示」と「子どもの自発性」の
バランスの再検討 → ・前時までの既習事項の定着度確認の重要性

緻密な授業構成と、深い児童理解に基づく関わり

4 オンデマンドについて

5月28日(水)	校内研修
7月 3日(火)	ミドルリーダーによる カリキュラム・マネジメント
8月19日(火)	学校経営Ⅱ(教頭)

◆外部講師による公開講義
をオンデマンド配信

…都合により参加できなかった場合でも講義が視聴可

4 指導案バンクについて

指導案コンテンツの閲覧方法

☆下記のリンクから後志教育研修センターのフォルダ内にある小学校・中学校に進んでいただき、閲覧してください。

https://siribesi-my.sharepoint.com/:f/g/personal/skc_siribesi_onmicrosoft_com/EuNfHewiwBILu5NDqLq21CwBrFuRR3jaRIQ6-cC64M4ig?e=oeuGt4

☆右のQRコードからも閲覧が可能です。



【第3章】

研究の

成果と課題

今年度の研究の成果と課題について

成果

- ・ 研究の方向性や進め方を所員全体で共有できた
- ・ 研究内容への共通理解を図ることができた
- ・ 研修講座を相互参観し、改善点を協議できた

課題

- ・ 研修後の実践や変化の把握ができていない
- ・ 研修成果を検証する実態調査が必要である
- ・ 検証授業を所員主体で実施する体制づくりが必要である

来年度に向けて

この1年を通して…

子どもの「興味・関心」や「問い」を大事にした授業

北海道教育研究所連盟 共同研究推進委員会

来年度に向けて

**「子ども」が主語
必要感のある課題設定
必要感のある単元（題材）計画**

北海道教育研究所連盟 共同研究推進委員会

**後志管内各校の
OJTに寄与できる
研修センターを目指して…**

あ と が き

Society 5.0 の実現や AI の進展など、社会が急速に変化する中、学校教育には、一人ひとりの個性や多様性を尊重し、主体的に学び続ける力を育むことが求められています。

3 年次研究の 2 年目となる今年度は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向け、【校内研修】【授業づくり】【授業改善】の 3 つの研修講座を軸として取組を進めてまいりました。各講座では、初任段階から経験豊富な教員まで幅広く参加し、実践的な学びの場となりました。また、検証授業では、「B 評価となる児童像の具体化」と「前時までの習得状況の見極め」を視点として授業改善の方策を探ることができました。

一方で、研修講座の対象の明確化や研修成果の検証など、次年度に向けた課題も見えてまいりました。

次年度は、3 年計画の最終年度として、これまでの実践を踏まえ、日常の授業づくりや授業改善に資する研修の在り方を追究してまいります。先生方の授業力向上に資する取組を推進し、その成果を管内全体に発信することで、後志の教育の充実に貢献したいと考えています。

末筆になりましたが、本研究紀要作成にあたり、お力添えいただきました研究委員の先生方をはじめ、教育関係機関の皆様にご心より感謝申し上げます。

令和 8 年 3 月

----- 研究委員 -----

学習指導に関する調査研究委員会

研究委員長	山本 啓太	(仁木町立仁木中学校	教諭)
副委員長	中島 佳美	(余市町立大川小学校	教諭)
	秋森 美南	(共和町立共和中学校	教諭)
委員	橋谷 紘彰	(俱知安町立東小学校	教諭)
	平間 侑弥	(岩内町立岩内東小学校	教諭)
	渋谷 大介	(余市町立黒川小学校	教諭)
	小中 準基	(寿都町立潮路小学校	教諭)
	齋藤 純輝	(泊村立泊中学校	教諭)
	山崎 北斗	(余市町立東中学校	教諭)
	菅原 健吾	(俱知安町立西小学校	教諭)

研究協力員

担当主任指導主事 熊坂 元宏 (北海道教育庁後志教育局教育支援課学校教育指導班)

研究紀要発行委員会

研修部長	清水 栄治	(京極町立京極小学校	教諭)
研修講座主事	小山 正博	(俱知安町立俱知安中学校	教諭)
調査研究主事	大塚 葉月	(俱知安町立俱知安小学校	教諭)